

令和4年度 第2回長野県長野高等学校学校評議員懇談会 記録

1. 日 時 令和5年 2月 15日 (水) 15:00～16:20

2. 会 場 長野県長野高等学校 大会議室

3. 出席者

学校評議員 5名 (五十音順)

佐野 忠文氏 (上松区区长) 竹内 里氏 (長野市PTA 連合会副会長)

中村 正行氏 (信州大学工学部教授) 藤井 純子氏 (東口メンタルクリニック臨床心理士)

松本 清氏 (長野運送(株) 代表取締役)

学校職員 12名 生徒代表 3名

4. 学校評議員懇談会

(1) 開会 (14:58～)

(2) 学校長挨拶 (15:00～)

・本年度6月に開催された学校評議員懇談会より特に大きな変化はなく、With コロナということで、通常通りの学校運営がなされている。コロナ禍によりマイナス面もあったが、ICT活用技術の向上等、得たものも多かったと感じる。

・弓道班の全国高校総体の出場をはじめ、様々な班活動において全国規模での活躍がみられた。個人においても、科学オリンピック、情報オリンピック等に積極的に参加し、優秀な成績を残している。

個人的に活躍している生徒については、遠征費など経済的な負担が大きく、今後は同窓会と協議し、支援をしたいと考えている。

(3) 自己紹介 (高校職員、生徒代表のみ)

(4) 学校より (15:15～)

① 全日制の状況について

(a) 概況：(全日制教頭)

・資料の後半に生徒の活躍の新聞記事の抜粋を掲載した。ご覧の通り様々な分野で、全国規模で大活躍している。

・4月当初、コロナ感染により1学年が学年閉鎖となり、その後現在まで7クラス学級閉鎖となった。学級閉鎖の条件は、当初、複数人の感染で閉鎖であったが、12月より在籍生徒数の20%と緩和された。

・学校行事は、コロナ前の状況に徐々に戻りつつある。

・全日制では生徒一人一台のタブレット端末を有し、すべての学年でオンライン授業が可能となっているが、来年度は全教員にも配布予定であり、更なるオンライン技術の向上とICTを活用した授業改善に向けた教員自身の学びを考えている。

(b) 進路指導係より：(進路指導係)

- ・4月当初、各教科のシラバス、進路指導の年間計画を生徒に提示しているが、将来を見据え、見通しをもった計画が重要である。
- ・年間5回の進路検討会を実施した。令和7年度から新学習指導要領による入試がスタートするが、外部から講師を招いて教員研修会を設定するなど対策を講じている。
- ・生徒はオンラインにより大学の特徴や研究室、論文等の情報を入手し、進路目標の参考にしている。
- ・本年度の東大、東北大セミナーは宿泊して実施することができ、参加生徒も多かった。
また、1学年では11月に大学キャンパスツアーを実施し、モチベーションアップに繋がっている。
- ・共通テストの結果は良好で、生徒は比較的強気に出願している。

(c) 生徒指導係より：(生徒指導係)

- ・本年度より新入生の自転車通学者のヘルメット着用を義務化した。上級生についても推奨している。交通事故の件数は、昨年度に比べて減少したが、自転車転倒による重大事故が1件起きている。
- ・班室の盗難事件があり、防犯カメラを設置した。
- ・本年度の心の健康相談の特徴は、保護者の相談件数が増えたことである。保健室からは相談に乗ってほしいと訴える生徒が年々増加しているとのことであり、来年度は相談室を増やし、外部医療機関との連携やカウンセリング等を活用し、生徒のメンタル面のケアに注意を払いたい。

(d) 生徒会係より：(生徒会係)

- ・応援練習は4月に声を出さずに振付のみ、2回目は6月にクラスを分けて実施した。
新入生歓迎会は実施したが、歓迎音楽会はできなかった。
- ・駅伝大会は予定通りに実施できた。金鵒祭は、「関係者公開」という形で限定での公開とした。また、4つの時間帯を設定し、分散してご来校いただくよう工夫した。
- ・新生徒会ではタブレットを活用し、ペーパーレス化を積極的に進めている。

(e) NGP係より：(NGP係)

- ・昨年度末で文部科学省指定のSGH事業は終了したが、基本的な事業は、NGPとして本年度も継続している。
- ・主な活動内容は、台湾とのオンライン交流、12月に実施した課題研究発表会(2年生)、フィールドワーク(1年生)の他、台湾研修旅行の代替として、立命館アジア太平洋大学(APU)への研修旅行を実施した。本研修旅行では、国際学生との対面での交流が行われ、生徒の成長にとって意義深いものとなった。

- ・来年度の活動は、全校同一の時間帯で行い、全職員が担当することを計画している。

(f) 3 学年より：(3 学年担任)

- ・コロナで始まりコロナで終わる学年であった。入学後すぐに2ヶ月の休校を経験したが、その中でも落ち着いて対応し、現在に至っている。
- ・コロナ禍においても様々な工夫を凝らし、九州研修旅行をはじめ、ほとんどの行事を実施することができた。
- ・最後の最後まで諦めずに集中力できる生徒が多く、共通テストでも結果を残してくれた。

(g) 2 学年より：(2 学年担任)

- ・課外活動が活発で、様々な分野において全国規模で活躍している。また、学業においても熱心に取り組み、早朝の教室ではお互いに教えあって学習する姿が見られる。
- ・理系を希望する生徒が多いのが特徴的である。

(h) 1 学年より：(1 学年主任)

- ・1月のスキー・スノーボード教室（志賀高原）をはじめ全ての行事が実施できた。
- ・大学キャンパスツアーでは、貴重な先輩の話聞くことができ、早期の進路目標の設定や学習への動機づけという意味で、とても有効であった。

② 定時制の状況について：(定時制教務主任)

- ・現在の在籍生徒数は、27名（1年12, 2年3, 3年10, 4年2）で、本年度の卒業生徒数は9名（3年7, 4年2）である。定時制は基本的に4年間で卒業するが、始業前授業を履修すると3年間で卒業も可能である。卒業後の進路は、県農業大学校、長野県看護専門学校へ進学、或いは地元企業への就職などである。
- ・義務教育段階で不登校を経験している生徒が多いため、職員間で生徒情報の共有に努め、外部機関との連携を活用し、個々の生徒の指導に生かしている。
- ・本年度の金鷄祭では、定時制展示として全生徒で制作した作品を廊下に展示するなど生徒同士の親睦を深める良い機会となった。また全生徒が参加する行事として、スポーツデイ、クリスマス会の他、ジブリ展見学やグランドシネマズでの映画鑑賞を取り入れた。
- ・総合的な探究の時間（1・2学年）に「中庭菜園」という授業を展開した。外部講師から、長野県固有の作物の種類・特徴を学び、実際に種をまき、育て、収穫を体験した。
- ・生活体験発表会は、北信大会、県大会とつながり、原稿作成や発表を通して生徒が自らの成長を振り返る良い機会となっている。

③ 今年度の学校評価について：(全日制教頭)

- ・2月中に資料等を送付しますので、全日制、定時制について年度末最終評価をお願いしたい。(各議員に依頼)

④ 非違行為防止について

- ・非違行為防止について校内ルールを定め、年度当初の職員会で全職員確認をしている。

⑤ 学校生活について（生徒より）

- ・生徒は皆、お互いを思いやりながら特定のグループでというよりクラス全体で行動するという雰囲気がある。
- ・それぞれの生徒が目標をもって高校生活をエンジョイしており、早朝の教室ではお互いに教えあって勉強する様子が見られ、学習に対する意識も高い。
- ・班活加入率が85%を超え、それぞれの生徒が得意な分野で活躍している。

(5) 意見交換

○評議員・校長の話にあった個人的に活躍している生徒とはどのような生徒か。

学校⇒・例えば、地学オリンピックでは、天文班の生徒が参加するというように班活動の一環としてメンバーがエントリーするが、情報オリンピックでは、情報という班はないので、個人としてエントリーし、上位大会へ進出している。従って、遠征費など個人負担が大きい。

○評議員・全国総文祭に積極的に参加するなど、更なる活性化を望む。そのためには、先生方の指導体制も重要であると考え。

・生徒がお互いに教えあって勉強している姿は素晴らしい。生徒は何時まで学校にいられるのか。富山・石川県では廊下に椅子があり、どこでも勉強ができる環境が整っていると聞くが、勉強をするための部屋は足りているのか。

生徒⇒・午後7時まで学習室などで勉強ができる。図書館も7時まで学習可能であり、学習環境は良いと思う。

・金鵒会館の学習室も7時まで学習可能で、机も多く、隣との仕切りもあって良いが、冬は少し寒いという話を聞く。

学校⇒・もう少し暖かくするよう同窓会事務局に伝えておく。

○評議員・生徒会の活動はどのようなことを目指しているのか。

生徒⇒・生徒の立場でどう学校生活を充実させるかを目指している。

金鵒祭などの行事の見直しや工夫を凝らして充実したものにする、或いは、全県の高校の生徒会は繋がっているので、様々な高校との情報交換を通じて課題を出し合い、議論をするなど、より充実した高校生活が送れるように努めたい。

何かを創り上げていく楽しさを感じている。

○評議員・地元の住民として、高校生の交通事故防止に役立つことがあれば協力したい。

・三輪交番で不審者情報を耳にした。地元と学校と協力して、高校生の安全が確保できればと思う。

○評議員・生徒の皆さんが充実した高校生活を送っていることがよくわかった。

○評議員・今の高校生はコロナ禍で大変であると感じた。

地元で企業経営をしている立場から、高校生の皆さんには、県外の大学に進学しても、地元の企業に就職するという方向も是非考えてほしい。

○評議員・数年間のSGHの成果として、今の生徒の活躍があると思うので、今後も長野高校の取り組みとして大事にしてほしい。

学校⇒・SGHから継続されている課題研究など、今後も更にブラッシュアップして発展させていくつもりである。

○評議員・生徒会では、どんな文書をペーパーレス化しているのか。また、どのようなシステムを使っているのか。

生徒⇒・金鵒祭に関わる文書や保健室だよりなど、全校の生徒に配布する文書を主にペーパーレス化した。紙資源の無駄を省くことができた。

・生徒全員がタブレットを持っているので、全員が共有するアプリを使用している。

(6) 校長より御礼の言葉

(7) 閉会 (16:20)